



Lis Blanc

No. 58

学報リスブラン(白百合)

発行/仙台白百合女子大学 〒981-3107 仙台市泉区本田町6番1号
tel 022-372-3254 URL <http://sendai-shirayuri.ac.jp>
編集/大学広報室

(転用・転載を禁じます)

本号の主な内容

- 01 巻頭言
- 02 SPUM来学
- 03 キャンパスライフ
- 04 クラブ・サークル活動紹介
- 05 行事報告
- 06 お知らせ
- 07 前期の公開講座報告
公開講座
- 08 一般入学試験概要
編集後記



「外に向かう」

仙台白百合女子大学 総合福祉学科 教授 中熊 靖

現在、本学において検討されている大学改革の方向について、私は「外に向かう」姿勢が重要であると考えています。いま行われている議論は、大学全入時代を迎え、日々変化している社会の要請に応えるため学科を再編して、生徒・保護者や高校教員から見て、より魅力のある形にするにはどうすれば良いかという内部変革に重きが置かれているように思います。

「外に向かう」という視点から二つ触れてみます。第一は、日本が大きな変革期を迎えている中で本学が存続発展する道は、社会に対して本学の機能を積極的に発信し、社会に貢献することです。私が縁あつて本学に奉職するようになってから約八年が経ちました。その間、大学の公開講座をはじめ各種セミナーを通じて多くの人と接してきましたし、宮城県や仙台市の公的委員会のメンバーも務めてきました。関西から突然やってきた私に、大学の名においてよくここまで社会貢献の機会が与えられたものだと感謝しています。

本学の各学科は、時代が必要とするさまざまな機能を有しています。それらを磨き、

積極的に発信することが、大学の存在意義を社会に認めもらうことにつながります。

第二は、学問の世界だけでなく、学生が卒業後に接するであろう実業界との接点をもっと増やすことが必要です。そうすれば世の中の動きをリアルタイムに把握することができ、いま社会が必要とする教育に反映することができ、また、そこで得た人脈によって就職先の開拓につながることもできます。

二〇〇七年に、イタリア・フランス研修旅行に四十五名の学生を率いて浅野浩子先生と共に参加する機会がありました。そこで最も印象深かったのは、本学の原点ともいえるシャルトル大聖堂と修道院を訪問したことです。そこから若い修道女たちがはるばる日本を訪れて、カトリックの教えと慈善と教育を伝えてくれたことが本学の今につながっているという感慨を覚えました。

もともと仙台白百合女子大学は、外に出て社会貢献するというDNAを持って生れています。本学の改革においては、そのDNAを活かす方向で進めていただくことを期待します。



「セント・ポール大学
マニラ校 (SPUM) から三十人が訪問」

国際交流センター長 矢口 洋生

昨年に続いて、フィリピンの姉妹校セント・ポール大学マニラ校から日本研修ツアーの一行が、十月十九日(火)から十月二十五日(月)まで仙台を訪れました。今回来たのは、看護学科の学生二十八人と教員二人、合わせて三十名の一行でした。学生は一人を除いて全員が四年生、ほとんどが二十歳前後でした(フィリピンの教育制度では大学は十六歳から二十歳までです)。教員は看護学科の教授二人で、そのうちのひとり「チェンと呼んでください」と言っていた方は学科長でした。

日本入りしたのは十月十六日(土)、十七日に都内観光、十八日に東京ディズニーランドを楽しんだ後の十九日仙台入りしました。看護学科の学生を対象としたツアーなので、仙台では日本の医療現場に触れていただきました。十月二十日(水)は光ヶ丘スベルマン病院を訪問し、先進的なホスピスの現状を見せていただきました。二十一日(木)はカリタスの丘を訪問し、日本の老人介護について見聞しました。フィリピンは平均年齢が若く、医療対象者も若年層が圧倒的だとのこと、二つの国の違いが鮮明に印象に残ったことでしょう。二十二日(金)は予定されていた病院訪問が、急遽キャンセルとなったのですが、午後から健康栄養学科の石出教授が日本の医療の現状について英語でレクチャーしてくださいと、また、さまざまな疑問点に明快に答えてくださいました。もちろん、勉強ばかりしてはいただけません。半日は学びましたが、残りはいろいろな場所を訪れました。仙台市内の主な観光名所は、「るーぶる」を乗り継いで訪れました。松島観光にも出かけました。今回の目玉として、日本の家庭にホームステイするという体験を取り入れてみました。総合福祉学科のボランティア・ツアーに参加して、過去にフィリピンに行ったことのある学生のご家庭を中心に、教職員を含めてたくさんの方から協力をいただきました。受け入れ側も受け入れられる側も、当初はかなり緊張したようですが、終了してみると得難い貴重で楽しい体験だったというコメントが寄せられています。真の国際交流は、人と人とがじかに触れ合うことから生まれます。「じかの触れ合い」が多かったことが今回の成果のひとつです。また、両国民にとっての宝となることでしょう。

看板リニューアル

大学広報室では、JR仙台駅二階北側柱面と地下鉄泉中央駅ホームの看板のデザインを変更しました。写真はこれまで校舎の風景でしたが、人物に変更し、イメージを一新しました。国際教養学科三年生の金田彩奈さんにモデルをお願いし、キャッチコピーは「自分を見つめる、未来を見つめる」としました。仙台駅の看板は照明をLEDに切り換えましたので、明るさもかなりアップしました。どちらも、関係者の多大な協力により、素晴らしい出来映えになっています。是非一度ご覧ください。



JR 仙台駅



地下鉄泉中央駅

ミヤギテレビ『ズームイン!!SUPER』
『大学生にズームイン!』で学生を紹介

ミヤギテレビ開局四十周年記念キャンペーンとして『ズームイン!!SUPER』のローカルコーナー『大学生にズームイン!』で、七月十九日(月)から八月二十三日(月)まで二十六回に渡り、クラブ・サークル等で活躍する本学の学生が紹介されました。放送された日程は下記の通りです。



放送日	紹介団体
7月19日(月)	Gアナサークル
7月20日(火)	ルネックス(環境サークル)(1)
7月21日(水)	リスプラン・トーンチャイム・ハーモニー(1)
7月22日(木)	SPC白百合クラブ(1)
7月23日(金)	健康栄養学科管理栄養専攻3年生(1)
7月26日(月)	白百合開発援助研究会(SDA)
7月27日(火)	ルネックス(環境サークル)(2)
7月28日(水)	バスケットボール部(1)
7月29日(木)	健康栄養学科
7月30日(金)	吹奏楽部
8月2日(月)	スイーツ・アラカルト
8月3日(火)	チアーズ★
8月4日(水)	茶道部

放送日	紹介団体
8月5日(木)	農楽部
8月6日(金)	人間発達学科4年生
8月9日(月)	リスプラン・トーンチャイム・ハーモニー(2)
8月10日(火)	ルネックス(環境サークル)(3)
8月11日(水)	軽音楽部
8月12日(木)	総合福祉学科2年生
8月13日(金)	健康栄養学科管理栄養専攻3年生(2)
8月16日(月)	SPC白百合クラブ(2)
8月17日(火)	聖歌隊
8月18日(水)	国際教養学科
8月19日(木)	Puente(手話・点字)
8月20日(金)	バスケットボール部(2)
8月23日(月)	白百合祭実行委員会



St. Paul University Manila
2010 Study Tour at Sendai Shitayuri Women's College, Japan

出逢い…感動…挑戦 そして私は前へ進む

SPC白百合クラブ 小関 比呂

私たちSPC白百合クラブは、21年から始まったフィリピンボランティア・スタディツアーに参加し、フィリピンの貧困について現地で2週間ボランティアをしてきました。

フィリピンマニラにある白百合学園と同じチャトル聖パウロ修道女会を母体とするSPUM（セントポール大学マニラ校）の学生達と共に、貧しい地区の人々の交流や山岳民族アエタ族の村、マニラから車で4時間ほど離れた村を訪問、スモークマウンテンを見学し、短い期間の中、子供達と沢山の交流、ボランティアをしてきました。現地の子供達の生活は、日本人の豊かな生活をしている私達にとってかなり衝撃を受けました。日本国内においてもボランティア活動をしなければならぬ場面が多くあることは承知していますが、今の日本の水準の貧困とフィリピンの貧困の状況は言葉にできないほどの違いがあります。そして私達は日本に帰ってきて何か私達にできることはないだろうか考えサークルを立ち上げました。

今活動している内容は、授業で使ったコピー用紙の裏側を再利用して子供達が使う「リサイクルノート」を作り、学生達が使用しなくなったペンや鉛筆を集め、フィリピンへ送る活動をしています。今年から活動の経験を生かし私が部長になりました。

たくさんの人にもフィリピンについて知ってほしい、私たちの力でもっとなにかできるのではないかと考え街頭募金を考えましたが、本学では今まで校外活動、街頭募金の前例がないので泉区の青年会議所の方に問い合わせたところ、色々とお知恵を貸して下さいました。一緒にまずは私達の大学の所在地である泉区民の方たちにフィリピンの現状を知ってもらおうと泉区青年会議所の方にご協力いただき、一緒に街頭募金をさせていただきました。今回集まったお金は8万円でした。

9月下旬から10月にかけて発生した台風の災害によって被災地で今も暮らしている方々のためにお金を寄付しました。

どんな小さなことも諦めたらそこで終わり、ひとりの力は小さいけれど続けていくことに意味があると思います。



環境活動を通して

ルネックス（環境サークル） 半田 和香

RNECSは環境に興味のある仙台市内の学生が集まったインカレサークルです。主に東北大学の学生達と共に、市内のイベントでゴミ分別のお手伝いをする「リサイクルステーション」や、合宿しながら環境について考える「ギャザリング」等に参加しています。環境活動を通して県内外の様々な人とのつながりを作ることができるので、活動に参加するたびに多くの刺激を受けています。

また、今年度の白百合祭ではわため販売と同時に、使用したわりばしの回収も行いました。使用済みのわりばしであってもリサイクルすれば新しい紙に生まれ変わる立派な資源。沢山のお客さんが回収に協力してくれたことを非常に嬉しく思っています。

「環境活動」というとなんだか難しいイメージがありますが、RNECSの活動は新しい出会いや発見が沢山あり、とても楽しめます。そのような活動で得たものを、自分自身の成長にも活かしていけたら、と考えています。



トーンチャイムの輪

リスラン・トーンチャイム・ハーモニー 支倉 祐香

皆さんは、トーンチャイムという楽器をご存知ですか。ハンドベルに似た音色で叩いて鳴らす楽器です。日本で発明されたもので、軽くて使いやすいので、多くの方に愛されています。私達のサークルは結成して二年です。



最近では、学内のミニコンサートを始め、中学校や老人ホームでの演奏や光のページェントにも参加しています。これからも練習に励み、演奏を通してトーンチャイムという楽器を知ってもらうために活動の場を広げ頑張っていきたいと思っています。

Gアナ活動紹介☆

Gアナサークル 新宮 美沙紀

私たちGアナサークルでは、お昼の校内放送や白百合のラジオCM、白百合祭での校内アナウンスなどを行っています。

校内放送では、自分たちで企画・運営・実行を行い、よりよいものを皆さんに配信できるよう、日々努力しています。

ラジオCMでは、本学のオープンキャンパスの中心を紹介し、ラジオを聴いている方に最新の情報を配信しております。

応援をよろしくお願いします!!



充実してます!

茶道部 太田 絹子

皆さんこんにちは!茶道部は週三回活動しており、その内月二回は茶道の先生に来ていただいて練習しています。各々の空き時間を利用して練習しているので、無理なく活動することができます。また、大学内での練習以外にも、他大学のお茶会や仙台七夕茶会、仙台光のページェント茶会等に参加し、多くの方々と交流を深めています。普段の練習だけでは経験できないことも多く学べるので、とても楽しく、充実しています。



充実したボランティア活動

SDAクラブ 高橋 美帆

私たちは様々な行事にボランティアとして参加しています。学内では古切手を集め、白百合祭ではフリーマーケットの売り上げを寄付しています。今年印象に残っているのは10月に開催された「ぐるーかるフェア」に参加したこと。これはフェアトレードについて学ぶイベントで、身近にある物の生産地や流通過程を考えました。私たちは活動紹介やフェアトレードの洋服モデルとして参加し、フェアトレードについて考えるよい機会となりました。

今後も地道な活動を続け、何かのお役に立ちたいと考えています。



学生球技大会

学生会役員 尾形 麻衣子



九月二十五日に球技大会を開催しました。種目はドッジボールです。この日の為に実行委員の学生会役員と行事運営委員で夏休み前から話し合いを重ね、初めての行事に試行錯誤の毎日でした。手探り状態の中で、参加者を募り、具体的な計画を組み立てていきました。当日は、各学年・学科・クラブ・サークルから沢山の学生に参加して頂いた事で盛況が期待出来るスタートでした。初戦から回を重ねる毎に白熱していき決勝戦の盛り



上がりは予想を越える試合で、実行委員としても大変嬉しく思いました。そして、「楽しかった。」という類の多くの声が聞けました。御協力頂いた全ての皆様に感謝の気持ちを込めて報告と致します。どうもありがとうございます。

サバティカル報告

イギリスの地方都市・ノッティンガムへ

人間発達学科教授 榎石 多希子



初めてイギリスを旅した折に、オックスフォードにある美しいカレッジ群の前で夢物語を彼らに託した際の、小二の息子のセリフである。今回サバティカルの機会を得てイギリスに行くことが決まった時、私の海馬からこの四半世紀前の光景が立ち上がった。

ロンドンから電車で二時間ほどの英国中部のノッティンガム市は、人口の十五％が非白人の多民族都市で、二十代の若者が多いことが



特色である。それは市の教育政策にも表れており、国立大学のノッティンガム大学も歴史的に地域の生涯学習やリカレント教育に貢献してきた。私が通っていた街中にある大学附置の成人教育センターや、University of the 3rd Ageの支部が置かれていた国際地域センターも大学の指導をえていて、研究には都合がよく、また幸運な出会いもあり約四カ月の滞在生活は楽しく充実していた。学内の皆様に感謝致します。

白百合祭「姫祭♡2010」を終えて

白百合祭実行委員長 高橋 絵里奈



今年度の白百合祭は晴天に恵まれ、お陰さまで盛況のうちを終えることができました。新企画として、お化け屋敷と白百合のお姫様を決める「ナイスカップルショー」を開催しました。このふたつのイベントは初めての試みだったので、皆に楽しんでもらうためにどうすればよいか、実行委員会で何度も話し合いました。うまくいくか不安もありましたが、当日は多くの方に足を運んでいただき、大いに盛り上がりました。今までとひと味違う白百合祭を楽しんでいただけたことと思います。実行委員一同とても嬉しく思っています。



皆様をはじめ、ご協力いただいた方々に心より感謝しております。ありがとうございました。

研究活動報告

総合福祉学科講師 吉田 輝美



〇〇九年度日本カトリック大学学連盟より学術奨励金「研究助成」をいただき、私たち「高齢者人権福祉の実践探求グループ」は、「高齢者介護に従事する老人福祉施設職員の人権調整基準に関する研究」を行い、特別養護老人ホームで職員と利用者へのヒアリング調査を実施しました。

「高齢者人権福祉の実践探求グループ」メンバー

・京都ノートルダム女子大学 三好 明夫
・聖カタリナ大学 山本 克司
・仙台白百合女子大学 吉田 輝美



広報室次長 佐々木 孝二

2010年度前期の公開講座と「カトリシズムと現代」の2回の講座は、「平和」をテーマに開催しました。参加者は延べ200名を超え、下は高校生、上は80歳代まで幅広い年代の方々が参加し、熱心に耳を傾けました。

第1回目は7月3日、カトリック新潟司教区の菊地功司教を講師に迎え、「アフリカ宣教師として学んだこと——現代アフリカの諸問題とカトリック教会」というタイトルでご講演いただきました。司教様ご自身の西アフリカ・ガーナでの体験やアフリカの民族紛争の問題など、地図や写真を交えてわかりやすく解説されました。

つづいて7月9日に、「ルワンダフルコンサート2010」とパネルディスカッションを行いました。プログラム前半ではルワンダ民族音楽・舞踊コンサートが催され、ジャン・ポール・サンプトゥさん率いるイングリ・ダンスチームによる迫力溢れるコンサートに会場は圧倒されました。後半はサンプトゥさん、NPO法人「ルワンダの教育を考える会」会長カンベンガ・マリールイズさん、本学から岩田靖夫名誉教授、矢口洋生教授、原田雅樹准教授がパネリストとなり、パネルディスカッションが行われました。ルワンダの大虐殺で両親と兄弟を幼なじみに殺される悲劇を体験したサンプトゥさんが自らの辛い過去を語りました。彼がその苦悩から麻薬や酒に溺れる日々を経て、やがて「赦す」ことで立ち直り、ミュー

ジシャンとして新たな人生を歩み始めたお話は深く皆の心を打ちました。地球上のあらゆるところで暴力の連鎖が続く今、ルワンダ民族の問題だけでなく世界の平和について改めて考えさせられた貴重な機会となりました。会場にはアフリカ滞在経験のある参加者もいて、活発な質疑応答が交わされました。

「カトリシズムと現代」の最後は7月17日、本学の矢口洋生教授による「平和な世界を創り出すために」という演題で講演が行われました。矢口先生は、聖書のなかで民族の問題を扱っている箇所に触れ、民族と福音のかかわりについて解説され、さらに真にキリストの共同体となるための教会の役割についても詳しくお話されました。平和学の専門家ならではの切り口で、参加者は熱心に聞き入っていました。

「平和」は人類共通の願いですが、現実には「平和」を改めて深く考える機会は残念ながらあまりありません。今回、体験者ならではの言葉の力、会場が一瞬にしてアフリカ色に染まる音楽や舞踊の力を感じた参加者は多く、この公開講座開催の意義は大きかったと思われま

す。今後も大学主催ならではの特色ある講座を企画し、多くの方が参加できる機会を設けていきたいと考えております。

公開講座

■仙台白百合女子大学
オンキャンパス社会人講座

テーマ 「いま哲学とはなにか」(全5回)
講師 岩田 靖夫 氏 (仙台白百合女子大学名誉教授)
日時 2011年2月12日・2月19日・2月26日・3月5日・3月12日
毎週土曜日
会場 仙台白百合女子大学
定員 100名
受講料 3,000円(テキスト代込み)
テキスト:岩田 靖夫「いま哲学とはなにか」岩波新書
申し込み締め切り 2011年2月4日(金)

■仙台白百合女子大学
クリスマスミサ&コンサート

日時 2010年12月16日(木) 10:00~14:00
会場 本学講堂
当日のプログラム
10:00~11:30 クリスマスミサ
昼休み
13:00~14:00 クリスマスコンサート
第1部 ピアノコンサート(四家昌博先生)
第2部 合唱(女声合唱団るるん♪ハーモニー)
14:00~15:00 学生会クリスマス会



学生会クリスマス会以外はどこでもご参加いただくことができます。下記要領にてお申し込みください。
申し込み方法 氏名(ふりがな)、郵便番号、住所、電話番号をご記入の上はがき、TEL、FAXまたはE-mailでお申し込みください。
お申し込み・お問い合わせ先 仙台白百合女子大学 大学広報室
〒981-3107 仙台市泉区本町6-1
大学広報室直通:TEL:022-374-4475 FAX:022-374-5082
E-mail:koho@sendai-shirayuri.ac.jp

■学部仙台サテライトキャンパス講座【学部仙台サテライトキャンパス全5回】

6月5日(土)	中熊 靖 教授	福祉事業の経営環境の変化と経営管理者の役割①
6月12日(土)	中熊 靖 教授	福祉事業の経営環境の変化と経営管理者の役割②
6月26日(土)	中熊 靖 教授	福祉事業の経営環境の変化と経営管理者の役割③
6月26日(土)	中熊 靖 教授	福祉事業の経営環境の変化と経営管理者の役割④
7月3日(土)	中熊 靖 教授	福祉事業の経営環境の変化と経営管理者の役割⑤

■カトリシズムと現代【本学講義室】

7月3日(土)	菊地 功 司教	①アフリカ宣教師として学んだこと——現代アフリカの諸問題とカトリック教会—
7月17日(土)	矢口洋生 教授	②平和な世界を創り出すために

■第23回公開講座【本学講堂】

7月9日(金)	ジャン・ポール サンプトゥ主演	ルワンダフルコンサート2010 (NPO法人ルワンダの教育を考える会) (+講演・パネルディスカッション)
---------	-----------------	---

■オンキャンパス社会人講座【本学講義室 全6回】

10月7日(木)	原田雅樹 准教授	戦争の記憶・戦争の記録①「苦難の記憶を未来に向けて」
10月14日(木)	原田雅樹 准教授	戦争の記憶・戦争の記録②「苦難の記憶を未来に向けて」
10月21日(木)	原田雅樹 准教授	戦争の記憶・戦争の記録③「苦難の記憶を未来に向けて」
10月28日(木)	大迫章史 講師	戦争の記憶・戦争の記録④「仙台白百合学園の記憶と記録」
11月4日(木)	大迫章史 講師	戦争の記憶・戦争の記録⑤「仙台白百合学園の記憶と記録」
11月11日(木)	大迫章史 講師	戦争の記憶・戦争の記録⑥「仙台白百合学園の記憶と記録」

【本学講義室 全5回】

10月16日(土)	中熊 靖 教授	福祉事業における現代に適合した人事システムの研究①
10月30日(土)	中熊 靖 教授	福祉事業における現代に適合した人事システムの研究②
11月6日(土)	中熊 靖 教授	福祉事業における現代に適合した人事システムの研究③
11月13日(土)	中熊 靖 教授	福祉事業における現代に適合した人事システムの研究④
11月20日(土)	中熊 靖 教授	福祉事業における現代に適合した人事システムの研究⑤

■宮城県福祉・介護人材確保対策事業【本学講義室 全4回】

10月2日(土)	キャリアアップ支援研修①「地域生活支援—諸外国より学ぶ—」(イタリア)
11月2日(火)	キャリアアップ支援研修②「地域生活支援—諸外国より学ぶ—」(アメリカ)
12月18日(土)	キャリアアップ支援研修③「地域生活支援—諸外国より学ぶ—」(カナダ)
1月22日(土)	キャリアアップ支援研修④「地域生活支援—諸外国より学ぶ—」(イギリス)

【本学講義室・調理実習室】

12月12日(日)	「介護教室」
-----------	--------

追悼の祈り

宗教委員長 原田 雅樹

11月は、カトリック教会において、死者の月とされています。そこで、本学でも11月10日昼休み12:00~50に、記念館メディテーション・ルームにおいて追悼の祈りの会を執り行いました。亡くなられた本学の教職員、学生の方々と及びそのご家族、友人の方々のためにお名前を読み上げ、共に祈りをささげました。見える世界に現在生きる私たちも、かつて生きてきた人々も、聖書的な意味での神の記憶のうちに共に「今」生きています。それは、新約聖書の中では、「神の国」での共食・祝宴といわれ、キリスト教会の古い伝統の中では「諸聖人の通功」といわれます。かつてこの世に生きてきた人々、現在生きる人々、未来生きるであろう人々が、ひとつの共同体として、よりよい世界を築くために連帯して歩んでいくことができますように。



紫山だより
一貫教育研修会
~ブランドとしてみる白百合~

紫山リエゾンオフィス 山田 定道

11月中旬に、紫山の幼稚園から高校までの教職員が一同に会しての一貫教育研修会が、「ブランドとしてみる白百合」をテーマに本学園を会場に行われました。まず、中高の土倉教頭先生からテーマについての講演。ブランドの意義、ブランドと建学の精神、白百合のブランド・アイデンティティ、ブランドのシンボルとしての校章、そして白百合のブランドを生かす方策などについて、白百合の一員として再認識することの必要性について熱のこもった講話がありました。これを受けて、今後の取り組みなどについて、各グループで熱心な話し合いが持たれました。その後、ボランティア活動の一環として、紫山町内の一斉清掃活動。地域と共に歩む白百合のイメージも必要なのかもしれません。学校に戻ると、事務所の方々が枯れ葉で焼いてくれた焼き芋の歓迎。熱々の芋をほおばりながら、たなびく煙に白百合のブランドイメージを高める狼煙になればとの願いをこめて散会となりました。



同窓会報告

同窓会会長 渡辺 博子



10月23・24日に開催されました大学祭に、ホームカミングディとして同窓会も参加させていただきました。昨年と同様に活躍されている卒業生の紹介と、地元で採れた新鮮野菜の販売(収益金はチャリティーへ)など、大勢の皆様にご協力をいただきました。今年度はその他に昨年退職されました、健康栄養学科の高橋伸子先生に『学生からの贈りもの——四十年のおもいで』というタイトルでご講演いただきました。また、還暦を迎えられた短大四回生の方々が元寺小路教会で祝福のお祝いをしていただき、母校に戻って高橋伸子先生の講演を聞かれその後、茶話会を開きました。参加されました皆様方は、若かりし頃に戻って、昔話などに花が咲き、和やかな時間を過ごされていたようでした。今後も同窓会の皆様方に喜んでいただける様、役員・事務局一同、力を合わせて取り組んで参りたいと思っております。



第3回 白百合フォトコンテスト
~入賞作品紹介~

<p>東北日経広告社賞 樋口詩織 「また明日~good bye~」</p>	<p>廣済堂賞 加藤静香 「Beautiful Girl」</p>	<p>ディスコ賞 小野悦徳 思い出作ろう!「チームでししJAPAN」</p>
<p>優秀賞 小笠原志乃 「放課後の学校」</p>	<p>第3回最優秀賞 鎌田まどか 「夕暮れ」</p>	<p>第3位 金須幸恵 「4年間がんばるぞ」</p>
<p>同窓会賞 鎌田まどか 「夜の学校」</p>	<p>同窓会賞 佐藤山梨花 「まじめに授業中」</p>	<p>同窓会賞 佐藤山梨花 「幸せな時間」</p>

—下記の皆様よりご協賛頂きました。ありがとうございました。—
株式会社東北日経広告社/株式会社廣済堂/株式会社ディスコ
仙台白百合女子大学・短期大学同窓会(敬称略)

